

AIによる業務効率化～AIの生成物を採用・修正・却下する判断を始める【会場】

(4126259)

本講座では、お手元のPCにプログラミング環境とローカルLLMの実行環境を構築し、データを外部に送信することなく、安全かつ低コストで生成AIを継続的に活用する方法を学びます。さらに、この環境で業務効率化を題材に生成AIを実際に活用することで、その特性や限界への理解を深めます。

開催日時	2027年2月3日(水) 10:00-17:00会場	
JUAS研修分類	データ・AI活用・技術動向(AI・新技術 検証)	
カテゴリー	共通業務（契約管理、BCP、コンプライアンス、人的資産管理、人材育成、資産管理）・セキュリティ・システム監査 専門スキル	
DXリテラシー	What(DXで活用されるデータ・技術)：デジタル技術	
講師	佐々木盛朗 氏 (atagraphy合同会社 代表) AI、データ、経営戦略の観点から、JUASのセミナー講師などを務める。日本電気株式会社中央研究所においてコンピュータサイエンス（ハイパフォーマンスコンピューティングとデータベース）および経営学（経営戦略）の研究に従事。主な論文は次の通り。 ・ Modularizing B+-Trees: Three-Level B+-Trees Work Fine (https://adms-conf.org/2013/sasaki_adms13.pdf) ・ プラットフォーム・ソフトウェア市場への新規参入の成功要因 (https://waseda.repo.nii.ac.jp/records/13124) その後、これらの研究を基盤として、株式会社ローソン等でデータサイエンス領域の業務に従事した。 初年度の2018年度から2022年度までの5年間、JUAS AI研究会の部会長を務めた。	
参加費	JUAS会員企業/ITC：35,200円 一般：45,100円（1名様あたり 消費税込み、テキスト込み）【受講権利枚数1枚】	
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会（NBF東銀座スクエア2F）	
対象	プログラミング未経験者でセミナーのテーマに関心のある実務経験者の方で・当日、下記の条件を満たすPCをお持ちいただける方・GoogleアカウントとGitHubなどのサービス登録用のメールアドレスがご利用になれる方 事前準備 ・16GB以上のメモリを搭載する、ローカルLLMを快適に実行できるWindows PCのご用意（管理者権限が必要です*）。 講師のPCは、16GBメモリのSurface Laptop 7です。 ・GoogleアカウントとGitHubなどのサービス登録用のメールアドレス *スタートメニューで「powershell」を検索し、「管理者として実行する」で起動できれば大丈夫です 初級	
開催形式	講義・個人演習	
定員	15名	
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。（2時間1ポイント）	
特記	■当日、下記の条件を満たすPCをお持ちください。 ・ 16GB以上のメモリを搭載する、ローカルLLMを快適に実行できるWindowsPCのご用意（管理者権限が必要です*）。 講師のPCは、16GBメモリのSurface Laptop 7です。 ・ GoogleアカウントとGitHubなどのサービス登録用のメールアドレス *スタートメニューで「powershell」を検索し、「管理者として実行する」で起動できれば大丈夫です	
ITCA認定時間	6	

主な内容

■受講形態

会場のみ（オンラインなし）

■テキスト

当日配布

■開催日までの課題事項

当日、下記の条件を満たすPCをお持ちください。

- ・16GB以上のメモリを搭載する、ローカルLLMを快適に実行できるWindows PCのご用意（管理者権限が必要です*）。
 - 講師のPCは、16GBメモリのSurface Laptop 7です。
 - ・GoogleアカウントとGitHubなどのサービス登録用のメールアドレス
- *スタートメニューで「powershell」を検索し、「管理者として実行する」で起動できれば大丈夫です

生成AIを活用するにあたって、生成物を単にコピーアンドペーストするだけではなく、その内容を理解し、検証し、最終的な判断を自ら行うことが重要です。生成された内容が常に正しい、または目的にかなっているとは限らないからです。

広く使われているブラウザ上で利用できる生成AIは手軽で便利ですが、その仕組みや実行環境は利用者から見えにくいです。より高度な業務への適用や、自社の業務に合わせたAI活用、独自の競争力につなげるためには、実行環境への理解も重要になります。

本講座では、お手元のPCにプログラミング環境とローカルLLMの実行環境を構築し、データを外部に送信することなく、安全かつ低コストで生成AIを継続的に活用する方法を学びます。

さらに、この環境で業務効率化を題材に生成AIを実際に活用することで、その特性や限界への理解を深めます。

業務効率化の手法やツールは今後も変化し続けます。しかし、誰が生成したアウトプットであれ、その内容を理解し、検証し、責任を持って活用する姿勢は、今後も変わることなく求められます。

◆主な内容

1. プログラムを生成する
 - 1.1 Windows Subsystem for Linux 2 (WSL)のインストール
 - 1.2 Linuxに触れてみる
 - 1.3 VS Codeのインストール
 - 1.4 AIによるプログラムの生成（ブラウザ上でのgemini等による生成）
 - 1.5 テキスト処理
2. プログラムを理解する
 - 2.1 コードが読めることの重要性
 - 2.2 Pythonの文法
 - 2.3 正規表現
 - 2.4 NotebookLMによるPython学習資料の作成
 - 2.5 作成された資料の評価と改善
3. 論理的に伝える
 - 3.1 情報を正確に伝える
 - 3.2 パラグラフライティング
 - 3.3 プロンプト改善演習
4. AIの基本動作を理解する
 - 4.1 回帰分析
 - 4.2 ニューラルネットワーク
 - 4.3 NotebookLMによるAI学習資料の作成
5. 業務を自動化する
 - 5.1 ローカルLLMのインストール
 - 5.2 Open Interpreterのインストール
 - 5.3 業務自動化：ファイル操作
 - 5.4 業務自動化：データ取得
 - 5.5 業務自動化：データチェック
 - 5.6 自動実行演習
6. 今後に向けたトピック

■当日、下記の条件を満たすPCをお持ちください。

- ・16GB以上のメモリを搭載する、ローカルLLMを快適に実行できるWindows PCのご用意（管理者権限が必要です*）。
- 講師のPCは、16GBメモリのSurface Laptop 7です。

・ GoogleアカウントとGit Hubなどのサービス登録用のメールアドレス

* スタートメニューで「powershell」を検索し、「管理者として実行する」で起動できれば大丈夫です